

(1) 柔道整復師が考える地域医療と地域防災について

吉元 拓也

保健医療学部救急救命学科

柔道整復師と地域医療・地域防災とはどの程度関係しているのか？そもそも柔道整復師の仕事って何だろうか？と思う人は少なくない。実は柔道整復師の地域貢献は多岐にわたる。柔道整復師が行ってきた（または行っている）そして今後、どのような未来を考えているのかを過去・現在・未来で話していきたい。

法的に認められている我々の業務範囲を医師、他医療従事者、一般の人々に理解してもらうことにより信頼関係が構築されるとともに柔道整復師としての役割がより明確化されると私は考える。このシンポジウムを通して“柔道整復師の存在意義”を見出していきたい。

(2) 地域における子どもの健康支援 —地域から災害支援へ—

田口 玲奈

鍼灸学部鍼灸学科

これまでに子どもの健康支援として、毎年、親子スキンタッチ教室を開催して早 14 年、様々な子育てイベントや保育園などで活動を行ってきた。

親子スキンタッチとは、鍼や灸の代わりにスプーンや歯ブラシ、ドライヤーなどを使って、皮膚をなでたり、こすったりする家庭で行う健康法である。子どもの健康支援を行うメリットには、子どもの健康管理・増進のみならず、幼い頃からの健康に対する意識付けが将来の健康を大切にすることや自己管理につながり、また、将来の鍼灸受療や鍼灸師の育成にもつながると考える。さらに、このようなイベントを通じて、子育て世代同士のコミュニティが形成され、子育ての悩みの共有や情報交換、相互支援などの場となり、地域のつながりを強化する役割を果たすと考えられる。

今回は、地域での健康支援から果たせる災害時の役割・支援について考察する。